

Waka 塾 テキスト

活動の実際

【著作権について】

このテキストは、著作権法で保護されている著作物です。

このテキストの著作権は、合同会社アカデミアに属します。

本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

【使用許諾契約書】

本契約は、本冊子を入手した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に合意したことになります。

第1条:本契約の目的

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条:禁止事項

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条:損害賠償

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がありますのでご注意ください。

第4条:契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第5条:責任の範囲

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても乙は一切の責任を負いません。

3大マインドについて

当塾は、現在、**テクニックよりもマインドを重視した内容**になっている。

当塾を支えるマインドが、この3大マインドである。

まずは、**3大マインドを身につけることを最優先に活動してほしい。**

マインドが重要な理由は、小手先のテクニックをいくら学んでも、なかなか成長できず、人生を変えることは難しいからである。

マインドは抽象度が高く、それを実践するだけで、大きな成長と自己変革を期待できる。

ひいては、自分の人生を大きく変える未来が手に入る。

3大マインドが身につければ、S級美女も思い通りに手に入り、女性に困らない人生になることは間違いない。

1. 媚びないマインド

相手に価値を置かないマインドでもある。他の2つのマインドよりも1段階、抽象度の高いマインドであり。全てを包括するマインドである。

相手に価値を置かないというのは、具体的に言うと、「嫌われるマインド」でもある。ほとんどの雑魚男は、嫌われたくないなので、相手の女性に価値を置いてしまう。

特にハイレベル女子は、自分に価値を置いてくる男を格下とみて、切り捨てる。

逆に、自分に価値を置かない（平気で嫌われる）男が来ると、興味が湧き、惚れしていくのである。

相手に時間とお金をかけないことも重要である。

2. 真に受けないマインド

「防御力」のマインドである。

格上感を出すには、相手の女性のどんな態度や言葉も真に受けないことが大切である。

ほとんどの男は女性の対応を真に受けてしまうので、それだけで雑魚扱いになる。

逆に、真に受けない男が来ると、それだけで特別に感じ、感情が揺れる。

真に受けないマインドは、「しんちゃんマインド」ともいう。具体的には、相手の反応を「すらす」「斜に構える」ことを行う。

ただ、このマインドは習得に時間がかかり、約1年間以上かかると思って良い。

3. Sっ気を出すマインド

「攻撃力」のマインドである。

3つのマインドの中で最も重要であり、かつ、成果に直結するマインドである。

Sっ気を出すだけで、相手女性に対して格上感が出る。成果が出るのも早い。

世の中の女性は、潜在的にSっ気のある男性を望んでいる。なぜなら、女性は本質的にMであり、自分をMにしてくれる男を求めているのである。

しかし、実際、Sっ気のある男性は、1割もない。だから、世の中のほとんどの男性に失望しているのである。

なお、Sっ気のある男性が少ない（Mっ気の多い男性ばかり）背景には、日本の学校教育、会社教育の弊害が大きい。組織に染まれば染まるほど、Sっ気は育たない。

こちらがSっ気満載で接すれば、それだけで相手女性の願望を満たす男性になれる。

表面的にSっ気が強い女性も、潜在的にはより強いSっ気のある男性を求めている。

Sっ気を出していくだけで、相手の女性は惚れてくるのである。

このマインドは、他のマインドと比較して、短期間で身に付きやすい。

まずは、最優先でこのマインドを習得したい。

Sっ気を出すマインドは以下の7項目である。

1. 弄る（弄りを連打する）
2. 突っ込む
3. スルーする
4. 命令する
5. 憂地悪する
6. からかう
7. 相手の嫌な表情を見て喜ぶ

女性と接するときは、常にこの7項目を意識していきたい。

活動序論

ガンシカや冷たい反応について

ナンパをしていると、必ず、ガンシカや冷たい反応がある。

このような反応があると、ダメージを負ってしまい、以後の声かけのテンションが下がったり、場合によってはその日の声かけをやめてしまう人もいる。

また、ガンシカや冷たい反応があると、真に受けて、すぐに離脱してしまう人がいる。

これは、自分がダメージを負っている証拠である。

こういう声かけをしていると、いくら声かけをしていても上達は難しい。

凄腕と呼ばれるナンパ師ほど、このガンシカや冷たい反応に対する粘りが半端ではない。

美女ほど反応が厳しいことを知っているからである。

ガンシカや冷たい反応への対策はとても大切である。

ガンシカも冷たい反応も反応である。

声をかけられた相手は、こちらの声は聞こえている。

反応が冷たいのは、反応する価値がないと判断されたからである。

ガンシカや冷たい反応に対して大事なことは

「**真に受けない**」「**良い反応を期待しない**」

こと、そして

「淡々と面白いことを放り込む」

ことである。

これらの反応は、極めて正常な反応であると理解し、冷静に対処する。

むしろ、都会で反応が良い場合こそ、違和感を感じるべきである。

往々にして、反応の良い子は、「即系」であったりする場合がある。

反応が良い子は、相手をするというよりも、放流すべき相手かもしれないという意識で対峙することが大切である。

逆に、ガンシカや冷たい反応の子は、

「こちらを鍛えてくれる貴重な存在」「正常な女子」

として扱うことが大切である。

実際、反応が厳しい子に対処する経験こそが、ナンパの実力を上げるには欠かせないようである。

こちらが真に受けてダメージを負ってしまっては、せっかくのチャンスを逃すことになる。

ガンシカを崩していく行為は、「ゼロイチ」を生む行為であり

ナンパの本質である

「ゼロイチ」の楽しさを知らない人は、ナンパの楽しさを知らない人である

相手がガンシカしても、想定内と理解し、淡々と面白いことを放り込んでいく。

ここで、ダメージを負ってしまうと、面白いことを放り込むこと自体ができなくなる。

ガンシカに対して、色々と放り込んで、実験してみるスタンスが大切である。

それでもダメージを負ってしまった場合

多くの凄腕ナンパ師たちは、こうしたマイナスイベントに対し、対策を持っている。

それが、「セルフトーク」である。

ネガティブなイベントを、自分でポジティブ変換して、自分に放り込む。

この変換を、NLPでは、「リフレーミング」という。

マイナスイベントが起きたとき、このセルフトークを自分に唱えて、リカバリーしていきたい。

ナンパでは、このセルフトークができる人が、結果的に凄腕になっていくようである。

セルフトークの例

「ガンシカに対して、冷静に対処できた。俺って凄いわ」

「今のガンシカのおかげで、経験値10倍ついたわ」

「今の冷たい反応が経験できて、また凄腕への階段を登れたわ」

「この子、俺を凄腕にしないと気が済まないみたいだな」

実際の活動について

1. シャドーイングを行う

当塾では、Waka 塾長のクロージング音声の「シャドーイング」を必須としている。

このシャドーイングを、声かけ前に行いたい。

できれば、カラオケなどに行き、その中で、しっかり発声しながらシャドーイングを行う。時間は30分くらいで良い。それから路上に出るのである。

すると、Waka 塾長のモデリングが自然にできる。

路上で、Waka 塾長が乗り移る（憑依する）までしっかり行なうことが大切である。

2. シュートノックを行う

当塾では、3ゲットまでは、ストリートでの声かけ前に、「シュートノック」をノルマにしている。

シュートノックとは、ホテル街に行き、ホテル方向に向かう女性に「RNA」で声をかけ、ホテル前に来たら、正面に立って立ち止めし、ホテル打診をするというものである。

シュートノックにより、

- ① シュートに慣れる
- ② 3大マインドが身に付く
- ③ 逆算思考が身に付く

と非常に大きな効果が期待できる。

3ゲットまではシートノックは必須。3ゲット後も行うことを推奨する。

なお、1回のシートノックの声かけ数は

① 首都圏：10人以上

② 地方：5人以上

とする。

シートノックを行ってから、ストリートに行くことになる。

3. 声かけに入る場面で気をつけること

① 相手が最初に笑うまでは、こちらは絶対に笑わない。

これは、大変に重要なことである。

これから面白いことを言うのに、こちらが笑ってしまっては、全く面白さが伝わらない。

しかも、こちらが笑っている時点で、気持ち悪い印象を与える。

特に初心者は、言葉の最後に無意識に笑っていたりするので、気をつけたい

② 煽り笑い

真顔で入るナンパだが、相手が笑ったら、こちらのモードも変えていく必要がある。

せっかく相手が笑ってくれたので、それを煽って大きくしていく。

相手が笑ったのを見て、こちらも笑う（煽り笑い）。

相手よりも少しテンションを高くして、引っ張っていく。

③ 短文で会話をする

よく、誠実系ナンパ師などで、長々と台詞を言う人がいるがダメである。

なぜなら、自分が長文で会話すると、相手が返しづらくなるからである。

特にアプローチにおいては、会話ラリーをすることが大切である。

そのためにも、こちらが短文で会話することにより、相手がかぶせやすくする配慮が大切である。

特に最初は短文にする練習をするために、

「1語だけ言う」

練習をするとよい

4. メイン会話

① 弄り連打を行う

当塾の3大マインドで最も大切なものは、「Sっ気を出す」マインドである。

これが圧倒的な格上感となって伝わり、一挙に主導権が取れる。

声かけのなかで、Sっ気の最も重要な要素となるものが、

「弄り連打」

である。

弄り連打は、弄りを単発で行うのではなく、文字通り、「連打」する。

つまり、失礼なことを連打するのである。

「嫌われたくないマインド」から卒業するためにも必須である。

② 相手の反応を拾う

相手と会話していて、相手から何らかの言葉が出てきたら、最優先でそれを拾うことが大切である。

ナンパで相手の反応を大きくできない人は、たいてい、これができていないことが多い。

相手中心の会話をしていくのだから、相手の反応を拾うことは、当然のことである。

基本は

「相手の反応を拾って、広げ、弄りで返す」

ことである。これさえできれば、ナンパはほぼ完成と言ってもよいくらい、大切なこと

である。

ただ、相手のグダは拾う必要はない。スルーで良い。

「真に受けないマインド」が大切である。

あと、テンプレ途中でさえぎってくるような反応も、スルーで良い。

相手の反応に振り回されず、テンプレを言い切ることが大切である。

③ 決めつけ連想トーク

ナンパでの基本的な切り返しトークは、「決めつけ連想トーク」である。

弄り連打の会話は、基本的に決めつけ連想トークで行うと言ってよい。

女性は、リアル会話（知識会話）を拒絶する生き物である。逆に、非リアル会話を好む性質がある。この女性脳に合致した会話が、決めつけ連想トークなのである。

決め付け連想トークは、まさに、「連想力」が問われる。

連想トークは、1つのネタからどんどん連想すれば良いので、会話が無限にできる。会話につまづく場合は、連想力がまだまだ足りない証拠である。

日頃から、ノートに決めつけ連想トークの内容を書きつける習慣をつけたい。

相手の感情を揺さぶりながら、格上感を出すために必須となる。

5. 打診について

① 方向転換、立ち止めをする

シュートを打つまでには、ホテル方向に相手を誘導する作業が必須となる。

そのために、ホテル方向へ移動していない場合は、相手を方向転換する必要がある。

これは、打診時ではなく、もっと早い段階で行うことが必要となる。

並行トークをしていながらも、このまま行くと、ホテルがあるのかを常にモニターすることが大切である。もしも、このまま行ってもホテルがない場合は、一刻も早く方向転換をする必要がある。

ホテル前では、必ず、立ち止めする。立ち止めしてから打診する。

方向転換や立ち止めの力は、シュートノックで普段からしっかり鍛えておきたい。

② 打診ばかりにしない

よく、それまで楽しく会話していたのに、打診になると、急にテンションを下げてしまう人がいる。

これは、打診一辺倒になってしまふからである。

打診自体、相手に決断を迫るものであり、相手も疲れるものである。

打診一辺倒になってしまふと、いきなり欲望が前面に出てくるので、相手はつまらなくなる。

大事なのは、打診 자체を楽しくすること。これに尽きる。

打診と打診の間に、打診以外の会話をはさむことも大切になる。

打診とは全く関係の会話をはさむことにより、会話に新鮮さが出て、がっつき感が薄くなる。

ここでも、力を発揮するのは、「共有スペース」である。

打診と打診の間には、共有スペース会話をはさんでいくとよい。

③ 1スト最低1シートを徹底する

カフェ打診（ホテル打診）が断られると、それであきらめてしまい、そのまま放流していまう人が多いが、これは大変にもったいない。

そもそも端的に言えば、「ナンパ」＝「シートを打つ」ことだと言える。

声かけばかりしていて、シートをしていないということは、本来のナンパ活動をしていないことになる。

このような本末転倒を避けるために、1回ストに出たら、必ず、最低1回はシートを打つようにしたい。

6. グダへの対応

打診をすると、必ずといってよいほど、断り文句がくる。この断り文句を、「グダ」という。

グダは「真に受けないマインド」で対応する

これに尽きる。

ナンパ音声を聴いていると、相手のグダをいちいち真に受けている人が多い
これをやっているうちは、なかなか成果が出ない。

「グダは真に受けず、そのグダを使って弄りふざけで切り返す」

あるいは

「グダはスルーする」

というマインドで臨みたい。

女子側も、男子がグダを真に受けるかどうかで格上かどうかをテストしているのである。

ナンパで最も大切なのは、このグダを楽しむことである。

今度はどんなグダが来るだろう。それに対してどう切り返してやろう。

と、考えることが楽しくなってくるだけで、ナンパの腕は飛躍的に上昇する。

会話する上での注意

① 相手の個人情報を聞かない

これも誠実系ナンパ師にありがちであるが、相手の個人情報を深掘りしないことが大切である。

相手は、いきなり声をかけてきた怪しいおっさんに、自分のことをなるべく話したくないのである。

これをくみ取ることをせず、相手の個人情報を聞くのは、客観視ができていない人間のことである。

あと、むやみに自分の個人情報を開示するのもやめたほうがよい。こちらが自己開示すると、相手に「返報性の原理」で、無言の自己開示の圧力がかかるからである。

特に致命的な個人情報は、「住んでいる場所」である。これだけは絶対に聞かないようしたい。

② 何でも「即答」を心がける

ナンパは、一瞬で相手をオープンさせる芸当が必要な会話である。

ここでは、会話のテンポが大きな役割を果たす。

相手の返答に対して、いちいち考えていたのでは、肝心のテンポが崩れてしまい、楽しさを演出するのが難しくなる。

相手の返答がきたら、基本、即答で返すことを心がけたい。

うまいユニーク返答でなくてもよい。まず即答する。

「どんな即答もユニークに伝わる」

という言葉があるように、即答はそれだけでユニークさを演出できる。

③ 自分の勝手なワールド、借りてきた言葉で連想トークにしない

会話においては、連想トークが大切だと書いたが、その連想の内容が大切である。

連想といっても、どんな連想でも良いわけではない。

自分の勝手なワールドや借りてきた言葉で切り返す人がいるが、これは、相手軸の会話にならないないので、ダメである。

連想する内容も、あくまで相手軸であることを意識したい。

④ 相手の反応にいちいち感情を揺らさない

これも、誠実系ナンパ師や即系狙いナンパ師にありがちなことであるが

声をかけて、相手の反応が良くて悪くても、こちらは冷静に対処することが大切である。

「反応が良い」 → 「嬉しい」

「反応が厳しい」 → 「テンション落ちる」

などと思っている限り、相手をコントロールするどころか、相手にコントロールされてしまっている。

相手の反応に関係なく、自分は定点観測。淡々と対処する姿勢が大切である。

⑤ 擬音語を有効に使う

これは、小手先のテクニックであるが、女子は、抽象的な言葉より、具体的な言葉が好きである。中でも、それがダイレクトにイメージできるような、擬音語が大好きである。

なので、こちらも意識して擬音語を使うようにしたい。

「すぐにお茶を飲んで帰りましょう」

→ 「ぴゅーっと、お茶を飲んで、ささーっと帰りましょう」

「失礼な奴ですよね。殴っていいですよ。よけるんで」

→ 「失礼な奴ですよね。ガンガン殴っていいですよ。ヒューンでよけるんで」

「いま緊張で胸が張り裂けそうです」

→ 「いま緊張で心臓バクバクしてます」

「今日なんでそんなにフォーマルなんですか？」

→ 「今日はなんでそんなに力チッとしてるんですか？」

「今日はとても元気ですよね？」

→ 「今日は元気ビンビンですよね？」